

時代劇を振り返る

—「生き死に」の型、人の世の夢—

と き：2月18日～3月15日

全4回、いずれも昼2時～4時

ところ：公民館3階 講座室



戦後しばらくの間、日本で制作される映画の半数は「時代劇」だったといわれます。それがいつしか時代劇は、「型にはまった」お決まりごと満載のドラマとして、特に若い人たちからは見向きもされなくなりました。でも「型」とは一体何でしょう？ 物語の型、人物の型、所作の型、映像と音声の型、よく見ると種々様々な「型」が絡まった複雑なネットワークのようなものが、時代劇世界全体を支え躍動させてきたことがわかります。

この講座では、いろいろな映画やドラマの断片を一緒に見て、その「見えかた」について世代を超えた意見交換を行い、時代劇史を参照しながら、かつての魅力とその崩壊について考えます。1950～60年代、時代劇が「国民的娯楽」だったころ、それは人々の目にどのように映っていたのか、ヒーローはその類まれな「目ヂカラ」によって、そして私たちは彼らの眼光のうちに、

いったい何を見ているのか？

◆第1回：2月18日(金)

「『薩摩飛脚（1955、右太衛門）』とヒーローのかたち」

◆第2回：2月25日(金)

「『薄桜記（1959、雷蔵）』と生き死にの型」

◆第3回：3月8日(火)

「『大菩薩峠（1965、仲代）』と殺陣のいろいろ」

◆第4回：3月15日(火)

「テレビドラマさまざま：子供に何を見せたいか」

定員：25名（申込先着順）

4回連続で参加できる方を優先します

申込先：1月14日（火）朝9時～

公民館 ☎ 572-5141

講師：

武村 知子（言語社会研究科教授）